

2021年度

上期決算説明会

2021/11/11

1. 2021年度 上期実績	P 3
上期実績 上期販売動向・原料価格上昇の影響と対応 参考：上期概況	
2. 2021年度 通期業績予想	P 8
通期業績予想 下期業績予想 課題への対応 注力課題 将来成長に向けた主な取組み BS/CF/配当方針	
3. 参考資料	P 17

1

2021年度 上期実績

上期実績

2021年度 上期実績




(単位：億円)

	FY2020 上期実績	FY2021 上期実績	前期比	計画比
売上高	1,726	2,045	+319	+145
営業利益	73	79	+6	+9
経常利益	68	76	+8	+13
親会社株主に帰属 する四半期純利益	43	60	+17	+15

- ・新型コロナウイルスの影響からの回復を主とした**販売数量の増加**、原料高に応じた**価格改定等**により**増収増益**。
- ・営業利益：前期のカカオ先物益（13億円）の剥落影響を除いた**実質の営業利益は前期比+19億円**。
- ・四半期純利益：**固定資産売却益**や**ハラルドでの還付税金などの特別利益**の計上により前期比+17億円の増加。





セグメント別営業利益 上期実績

(単位：億円)

セグメント	FY2021 上期実績	前期比	計画比
 植物性油脂	43	+8	+15
 業務用チョコレート	28	▲0	▲3
 乳化・発酵素材*	10	+3	▲5
 大豆加工素材*	18	▲5	+0
グループ管理費用	▲19	▲1	+2
計	79	+6	+9

*2021年度より大豆加工素材事業に含まれていた豆乳およびUSS豆乳製品を乳化・発酵素材事業に含めており、遡及修正した数字を比較

前期比増減要因

-  原料高の影響はあったものの、**堅調な販売**により増益。
-  日本などで堅調な販売があったものの、前期の**ブラマーのカカオ先物益の剥落（13億円）**により微減益。
-  原料高や新型コロナウイルス等の影響はあったものの、日本が伸長し増益。
-  原料高の影響や固定費の増加などにより減益。

計画比増減要因

- ・価格対応により**原料高影響は計画より軽微**
- ・日本やブラジルが堅調も、**ブラマー下振れ**により利益未達。
- ・日本では原料高対応、付加価値品が伸長。一方、東南アジア・中国とも数量回復も**原料高やコスト増**により計画比下振れ。
- ・利益は計画並みも、**コモディティ製品の競争**激しい。

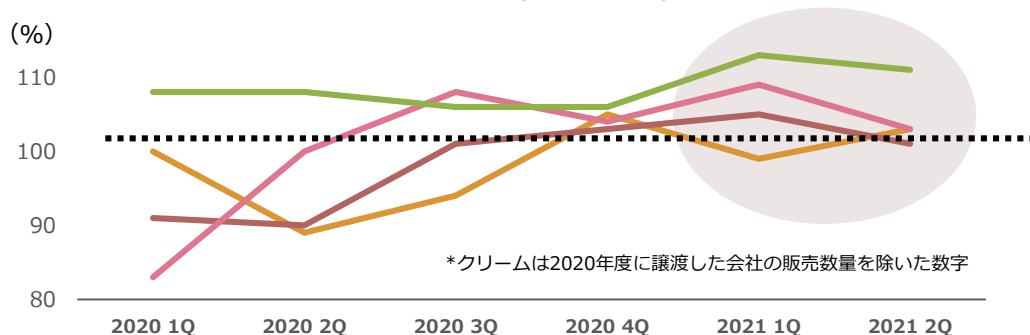
上期販売動向・原料価格上昇の影響と対応

販売動向

主要製品の販売数量は2019年度を上回る水準で推移

主要製品群 数量推移

(2019年度(新型コロナウイルス拡大前)同期比較)



ー チョコレート用油脂(CBE)

2020年度に新型コロナウイルスの影響による需要の減少はあったが徐々に数量が回復。2019年度を上回る水準で推移

ー チョコレート

東南アジア(主にインドネシア)の新型コロナウイルスによる需要回復遅れはあるが、日本、ブラジル、欧州で販売増加し、全体では2019年度を上回る水準で推移

ー クリーム

外食需要は引き続き回復途上も、ホームメイドや中食向けの販売が伸長し、2019年度を上回る水準で推移

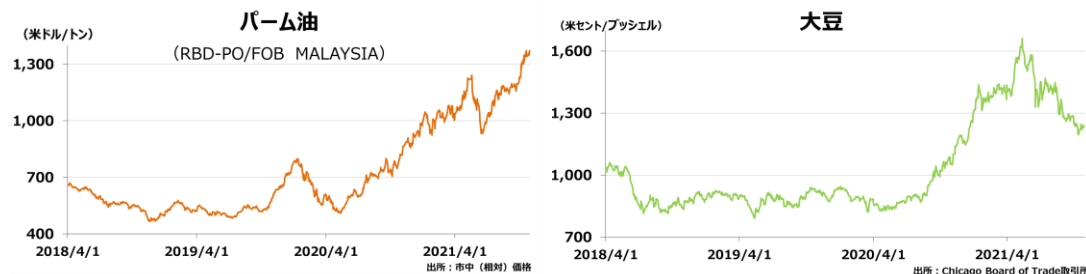
ー 大豆たん白素材(粉状・粒状)

健康需要の高まりの継続により、高付加価値品の堅調な需要続く





原料高影響

コモディティ品は価格競争厳しく全体的に収益性低下

パーム・大豆など主原料価格は歴史的な高水準で推移



主原料価格の上昇を受け全セグメントで価格改定を実施

-  米州、欧州ではフォーミュラー取引が主体かつ数量伸長し影響軽微、定価製品を有する日本は価格改定進めるも、一部下期にずれ込む
-  原料高の影響を受けるも、価格改定により影響は限定的
-  東南アジア、中国はマーガリンの価格改定の遅れ、日本は、原料高の影響を受けるも、高付加価値品の販売数量増加により収益性は改善
-  原料高によりコモディティ品の収益性は一部低下するも高付加価値品が堅調に推移しカバー

参考：上期概況



植物性油脂事業

各エリアで需要は堅調

日本

- ・原料高の影響は、1Qは限定的も2Qより採算性が低下。
- ・前年からの反動減あるが、菓子向け等堅調。
- ・定価製品は段階的に価格改定を実施も、一部下期にずれ込む。

米州

- ・外食向けの販売数量の回復、他の油脂原料からパームへの置き換え需要により販売数量が増加。
- ・ニューオリンズの新工場の稼働開始。

東南アジア

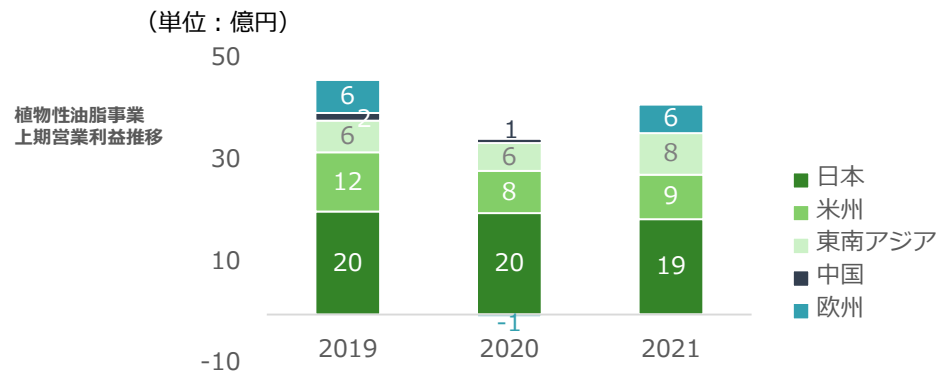
- ・前年比で数量減も、チョコレート用油脂（CBE）の販売堅調等により原料高をカバー。

中国

- ・前年の巣ごもり特需の剥落も、計画比では伸長。

欧州

- ・土産需要の回復、チョコレート用油脂の販売大幅増により増益。



業務用チョコレート事業

日本・米州・欧州で堅調な販売

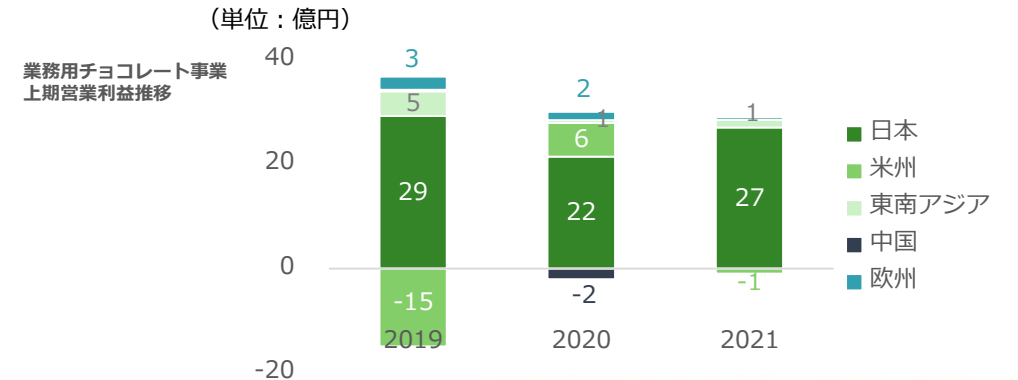
- ・前年低迷の土産向けの回復は限定的。
- ・アイス向け、製パン向け等が堅調に推移し、販売数量が前年比増加。

- ・(米国)：需要回復に加え、販促強化も進めチョコレート製品の販売数量は増加。工場従業員不足による生産性の課題は継続。
- ・(ブラジル)：新型コロナウイルスの影響からの回復、販促強化により販売数量増加。また価格改定により採算改善。

- ・新型コロナウイルスの感染再拡大による需要低迷の影響は残るものの、アイス向け販売数量が回復基調。

- ・ブラマー上海と不二製油張家港の2拠点体制の運営の推進。
- ・ブラマー上海の営業赤字幅は縮小。

- ・移動制限解除等により販売数量が増加も、生産能力増強の設備投資により、減価償却費等が増加し減益。



*2019年度については、2019年に決算期を変更した会社の数値を、4-9月に調整した数値を表示。

参考：上期概況



乳化・発酵素材事業

原料高の影響が東南アジア・中国で現出

日本

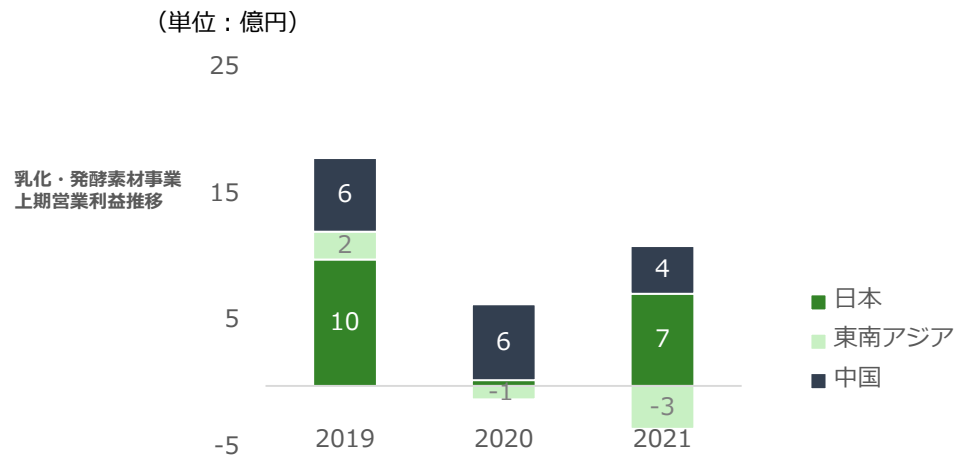
- ・ 外食や土産向けは回復途上であるものの、**プチ贅沢需要**による洋菓子向けの販売増加。
- ・ **高付加価値品の販売堅調により、収益性は回復傾向。** 上記販売数量の増加もあり、営業利益計画を超過。

東南アジア

- ・ 新型コロナウイルスの感染再拡大や**原料高の影響による収益性悪化**等により前期比赤字幅拡大。
- ・ 調製品事業は、**固定費増加に加え需要回復鈍く、物流混乱**も影響。

中国

- ・ 販売数量は前年を上回るも、**原料高の影響などにより、営業利益計画には未達。**

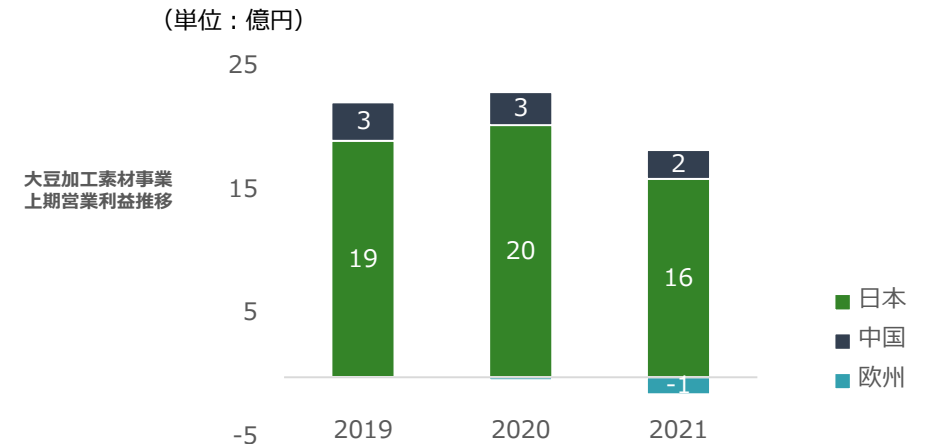


大豆加工素材事業

コモディティ品が原料高により収益性低下

- ・ 大豆たん白素材はプロテイン飲料向けは伸長、機能剤は前年並みの販売数量。
- ・ 2Qより原料高の影響が現出し**収益性低下**も、高付加価値品の堅調な販売がカバーし、営業利益は計画並みで着地。

- ・ 日本向けは回復が遅れたが、中国国内向けの機能剤の販売が堅調に推移



*2019年度については、2019年に決算期を変更した会社の数値を、4-9月に調整した数値を表示。

2

2021年度 通期業績予想

通期業績予想

2021年度 通期業績予想




(単位：億円)

	FY2020 実績	FY2021 通期修正予想	前期比	FY2021 期初計画	修正額
売上高	3,648	4,300	+652	4,000	+300
営業利益	179	180	+1	180	-
経常利益	176	168	▲8	168	-
当期純利益	110	115	+5	115	-





- ・ 堅調な販売に加え、原料相場の推移を勘案し、**売上高を4,300億円に修正。**
- ・ 堅調な販売は見込むものの、原料高の影響や新型コロナウイルスの影響などを勘案し、**利益計画は変更せず。**

セグメント別営業利益 通期予想

(単位：億円)

セグメント	FY2021 通期修正予想	前期比	期初計画比
 植物性油脂	75	▲4	+13
 業務用チョコレート	86	+10	▲3
 乳化・発酵素材*	29	+2	▲8
 大豆加工素材*	30	▲5	▲4
グループ管理費用	▲41	▲3	+2
計	180	+1	-

前期比増減要因

-  **原料高の影響**により減益を見込む。
-  ブラマーの先物益剥落の影響はあるが、**日本、ブラジルでの堅調な販売**を見込み増益を計画。
-  原料高の影響を勘案も、**日本や中国での伸長**により増益を計画。
-  **原料高による採算性の低下**により減益を見込む。

*2021年度より大豆加工素材事業に含まれていた豆乳およびUSS豆乳製品を乳化・発酵素材事業に含めており、遡及修正した数字を比較

下期業績予想

2021年度 下期業績予想



(単位：億円)

	FY2020 下期実績	FY2021 下期修正予想	前期比	FY2021 下期期初計画	修正額
売上高	1,922	2,255	+333	2,100	+155
営業利益	106	101	▲5	110	▲9
経常利益	107	92	▲16	105	▲13
当期純利益	67	55	▲12	70	▲15





- ・上期は、原料高を販売の伸長および価格転嫁等でカバーし、**営業利益9億円の超過達成**。
- ・下期は、**原料高の影響等により**、乳化・発酵素材事業、大豆加工素材事業で下振れを見込むが、**期初通期計画の営業利益180億円の達成を図る**。

セグメント別営業利益 下期予想

(単位：億円)

セグメント	上期実績	上期 期初計画比	下期 修正予想	下期 期初計画	下期 期初計画比
 植物性油脂	43	+15	32	34	▲2
 業務用チョコレート	28	▲3	58	58	▲0
 乳化・発酵素材*	10	▲5	20	23	▲3
 大豆加工素材*	18	+0	13	17	▲4
グループ管理費用	▲19	+2	▲22	▲22	▲0
計	79	+9	101	110	▲9

下期 期初計画比増減要因



-  期初想定以上の原料高により、価格改定を推進も、**期初想定並みの採算性の低下**を見込む。
-  **ブラマーの見通しを下方修正**
・日本での堅調な販売を見込み、下期期初計画並みの着地を見込む。
-  **期初想定以上の主原料の高騰**を受け、東南アジア、日本の下期予想を下方修正。
-  **期初想定以上の主原料の高騰**を受け、**コモディティ品の収益性低下**を見込み、下期予想を下方修正。

*2021年度より大豆加工素材事業に含まれていた豆乳およびUSS豆乳製品を乳化・発酵素材事業に含めており、遡及修正した数字を比較




課題への対応

2021年度状況

強みを発揮し好調に推移

- ・顧客密着により高いシェアを有し、提案力を発揮
 日本・ブラジル
- ・健康・栄養需要
 大豆たん白素材

通期計画引き下げ

- ・一部のコモディティ製品群
 東南アジア・中国
 日本・中国
- ・労働力不足・生産性の課題継続
 ブラマー

課題への対応

下期対応

経営環境

原料・資源の高騰の長期化

新型コロナウイルス感染再拡大リスク

成長投資による先行費用増

不透明な経営環境下、

- ・価格改定
- ・経費削減
- ・原料ポジション管理
- ・顧客密着による提案強化

を着実に実行、
需要を取り込み営業利益180億円を達成する

注力課題

- ①コモディティ製品群への対応 →P12
- ②ブラマー収益改善への取組み →P13

中長期対応

先行布石の取り込み、
課題解決により成長モメンタムへ

- ・ブラマーの改善
- ・植物性食、サステナビリティの取組みのビジネスでの実現化
- ・成長投資の刈り取り

→P14-15

注力課題①コモディティ製品群への対応

コモディティ製品群と市場環境



乳化・発酵
素材事業

東南アジア

マーガリン、
調製品等

- ・原料高による**採算性の悪化**
- ・新型コロナウイルスの長期化による**需要低迷**
- ・日本の需給要因と競争激化による調製品の**低迷**

中国

マーガリン等

- ・景況感の悪化を受けベーカリー市場の**成長率の鈍化懸念**
- ・多数の競合他社が存在し、原料高による**価格競争**が加速



大豆加工
素材事業

日本

増量・結着等用途に使用される大豆たん白素材等

- ・原料高による**採算性の悪化**
- ・コモディティ分野における海外競合他社の**価格攻勢**

対応方針

- ・調製品の価格改定による収益改善
- ・調製品を主体とした**ビジネスモデルからの転換**
- ・より**顧客に密着**した提案を強化
- ・合理化・再編計画を推進



フジサニープラザ

- ・**差別化された新製品**の積極的な投入
- ・顧客基盤の確保と**利益率の高い製品**の重点的な拡販



ベーカリーチャイナでの新しいパンの提案

- ・**高付加価値製品群**の比率向上
 - 健康、栄養に寄与する大豆たん白素材
 - 差別化された大豆ミート原料の展開
- ・海外委託先と国内工場のキャパシティを考慮した**生産品目の最適化**への取り組み



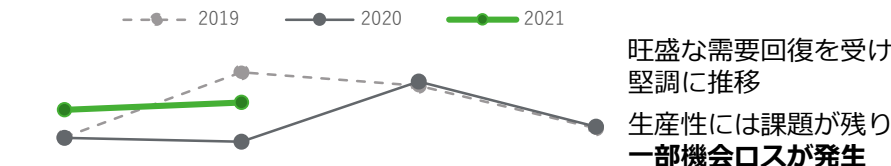
千葉工場を含め、大豆たん白素材（粉末状・粒状）の高付加価値品の開発、拡販を推進

注力課題②ブラマー収益改善への取組み

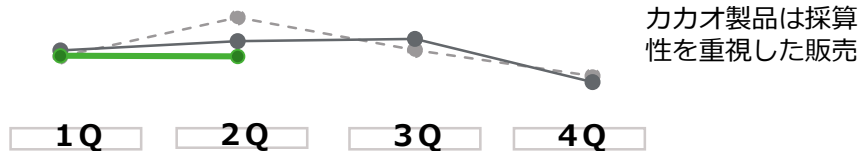
上期動向

■ 販売数量動向：チョコレート製品の販売は堅調に推移

チョコレート製品

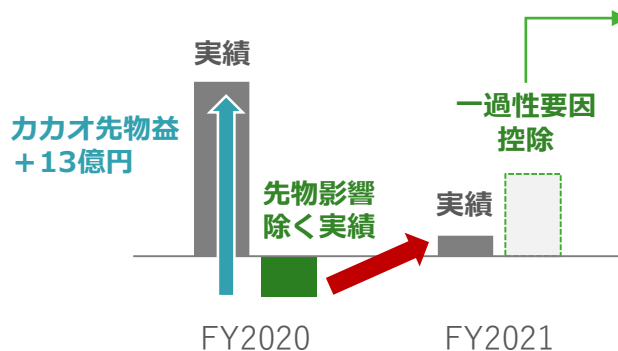


カカオ製品



■ 営業利益：一過性要因はあったものの前年からは回復

ブラマー上期営業利益（円貨）



<一過性要因>

- ・コスト高騰
急速な需要回復によるコンテナ不足、副原料高騰や労働問題に起因した配送費高騰など
- ・カカオ製品市況の悪化

<供給体制の課題>

- ・労働力不足や定着率低下による生産性低下など

供給体制の課題への対応

課題と状況

推進中の対応施策

労働力不足継続
(Work Life Balanceの
変化など)



生産効率改善は
継続的に推進、
一部改善成果が
現出

● 採用強化

- ・労働条件改善：賃金増、福利厚生の拡充
- ・採用方法の拡充：SNSの活用等
- ・工場別の採用：所在地の状況に応じたきめ細かい採用

●● 生産人員のトレーニング体制強化

- ・定着率向上、生産人員のスキルアップにより、生産性向上を図る

●● 新規投資による合理化・省人化の推進

- ・オートメーション化促進、エンジニアの採用強化

● 生産性改善活動の継続

- ・生産改善の担当者による対応を推進中、課題は残っているものの一部工場では改善が見られる

● 生産プロセスの検証・システム導入

- ・カリフォルニア工場の生産プロセスの検証、改善に着手。今後、他3工場にも順次横展開を予定
- ・生産効率改善の施策の一つとして、システム導入により工場のメンテナンスプロセスを強化、工場設備の稼働率の向上を図る

将来成長に向けた主な取組み 1/2

高付加価値化が狙える領域・成長が見込める市場に対するアプローチ



米国

南部におけるシェア拡大

- ・米国の2拠点目の油脂会社
フジオイルニューオリンズが
稼働開始。
- ・米国南部でのパーム油シェア
4割獲得を目指す。
- ・自然災害の多いエリアにおける
BCP体制の構築。



ブラジル

拡販施策・新工場着工

- ・イベント需要喚起のための
販促など、全社一丸となった
取り組みで閑散期拡販強化。
- ・新市場、新製品の拡販を目指し、
2021年度よりハラルドの第2
工場の着工。段階的に生産能力
を引き上げる予定。



中国

生産強化・新製品群投入

- ・フィリング
: 生産キャパシティが上限に。
ベーカリー、洋菓子市場の
成長を見込み、生産能力増強。
- ・クリーム
: 新工場の起工。差別化製品の
展開を狙う。



ドイツ

多糖類事業

- ・多糖類事業のビジネスエリア
拡大を狙う。
- ・2021年度内に稼働開始予定。

将来成長に向けた主な取組み 2/2

植物性食市場での成長やサステナビリティに対するアプローチ



日本

PBF製品の多様化加速

- 大豆ミート、ソイウニ、豆乳クリームバター、スープベース等、植物性原料を用いた多様な製品ラインナップを展開。
- 10月には有楽町で植物性食のポップアップイベントを実施



オランダ

欧州R&Dセンター開設

- 欧州R&Dセンターを開設（2021年10月）
- グローバルイノベーションのハブとして、情報収集や新技術獲得、重要顧客との技術交流を行う



グローバル

植樹による森林再生*

- 2021年度は、ガーナ西部地域へ10万本の苗木植樹完了を見込む
- 苗床の管理育成において、コミュニティの約60名の雇用を創出
また、将来世代の知識向上に寄与
- 当プロジェクトにより、1,300軒を超える農家が収入向上、生計多様化など経済的な恩恵を享受する見込み

*カカオのサステナブル調達 <https://www.fujioilholdings.com/sustainability/social/cacao/>
長期KPIのひとつとして、2030年植樹100万本達成を掲げる。森林再生、生物多様性、雇用創出、農家の収入向上などを狙う。



日本

サステナブルチョコレート

- 2020年より、ブラマーのノウハウを活かしたサステナブルカカオプログラムを開始
- 日本でのサステナブルな業務用チョコレートの展開を予定。

BS/CF/配当方針

BS主要項目

・のれん増加

：償却が進むも、換算為替の影響で増加。

・有利子負債増加

：堅調な販売を背景にした運転資金の増加により増加。

(単位：億円)

	FY2020 期末	FY2021 上期
現預金等	205	159
のれん(広義)	466	479
資産合計	3,585	3,736
有利子負債	1,313	1,350
負債合計	1,956	2,015
純資産合計	1,629	1,721

	FY2020 期末	FY2021 上期
ネットD/Eレシオ(倍) (Net有利子負債÷株主資本)	0.63	0.66
自己資本比率(%)	44.6	45.3

CF項目

・営業CFは前年同期比▲142億円

：原料価格の上昇、販売数量の伸長による
運転資本の増加により減少。

・CCCは前年同期比▲13日

：棚卸資産回転日数の短縮が寄与。
売上債権回転日数、仕入債務回転日数は
前期並み。

(単位：億円)

	FY2020 上期	FY2021 上期	FY2021 修正予想
営業CF	174	31	133
投資CF	▲70	▲82	▲167
FCF	103	▲51	▲34
CCC(日)	118	105	103

配当方針

・1株あたり52円/年間を計画

・配当性向38.9%

・今後の配当に関する考え方

：引き続き、安定かつ継続的な配当の実施を
目指す。

(単位：円)

	上期	下期	通期	配当性向
FY2020	26	26	52	40.6%
FY2021	26	26(予)	52(予)	38.9%

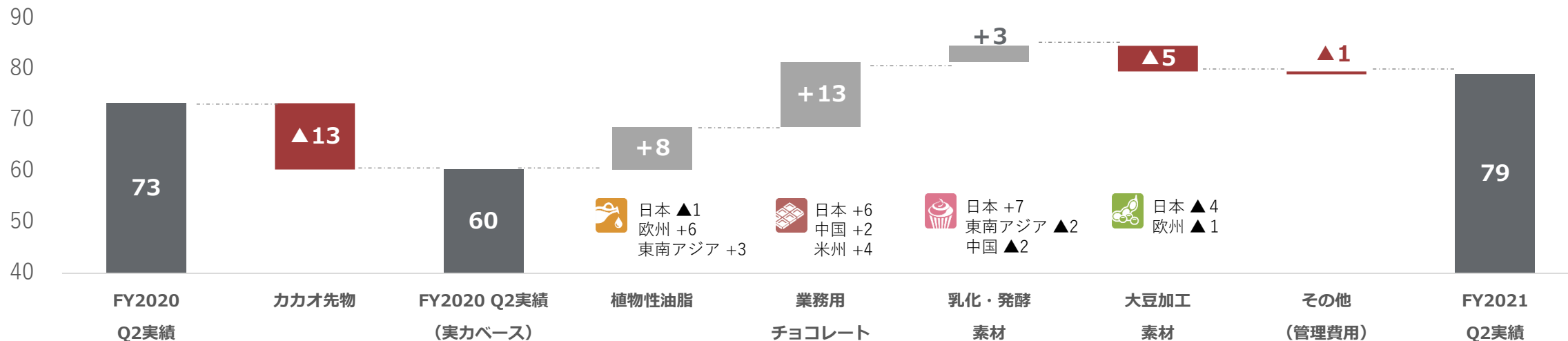
3

參考資料

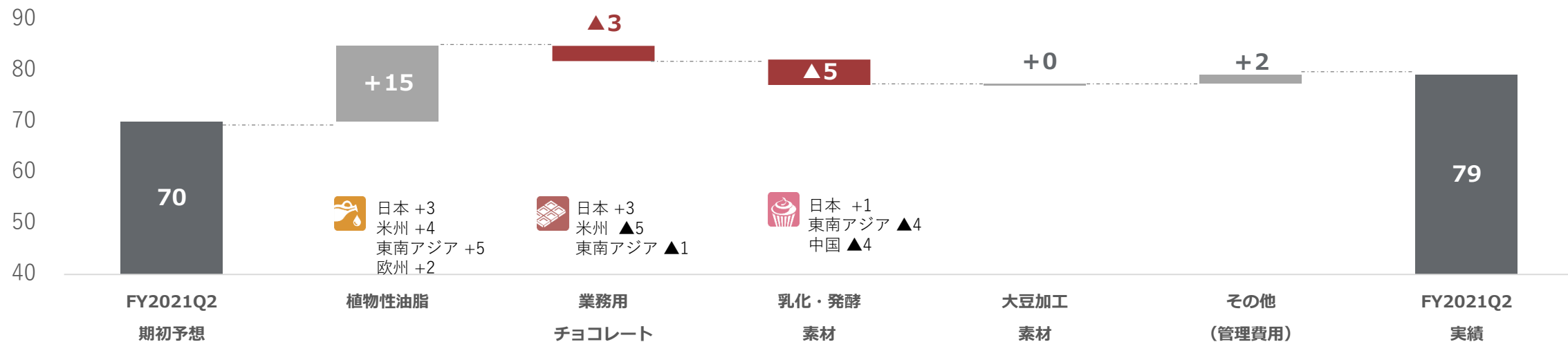
営業利益増減分析（上期実績）

上期実績（対前年）

（単位：億円）



上期実績（対期初計画）



営業利益増減分析（下期業績予想）

下期予想（対前年）

（単位：億円）



下期予想（対期初計画）



売上高・営業利益（事業別・所在地別マトリクス）

売上高

	年度 ※	日本		米州		東南アジア		中国		欧州		連結計	
		前期比	前期比	前期比	前期比	前期比	前期比	前期比	前期比	前期比	前期比	前期比	
植物性油脂	2021 修正計画	40,800	+5,579	46,500	+16,167	18,700	+3,713	2,500	▲214	21,600	+6,444	130,100	+31,687
	2021 期初計画	35,700	+479	38,000	+7,667	16,400	+1,413	2,800	+86	14,600	▲556	107,500	+9,087
	2020 実績	35,221	-	30,333	-	14,987	-	2,714	-	15,156	-	98,413	-
業務用チョコレート	2021 修正計画	41,900	+5,629	118,700	+10,962	12,100	+2,371	6,600	+972	4,600	+1,524	183,900	+21,455
	2021 期初計画	38,400	+2,129	114,100	+6,362	12,100	+2,371	7,900	+2,272	3,700	+624	176,200	+13,755
	2020 実績	36,271	-	107,738	-	9,729	-	5,628	-	3,076	-	162,445	-
乳化・発酵素材	2021 修正計画	52,200	+2,475	-	-	11,000	+1,792	16,100	+4,436	-	-	79,300	+8,701
	2021 期初計画	52,500	+2,775	-	-	11,000	+1,792	16,800	+5,136	-	-	80,300	+9,701
	2020 実績	49,725	-	-	-	9,208	-	11,664	-	-	-	70,599	-
大豆加工素材	2021 修正計画	34,600	+2,956	-	-	-	-	2,000	+323	100	+100	36,700	+3,379
	2021 期初計画	33,900	+2,256	-	-	-	-	2,000	+323	100	+100	36,000	+2,679
	2020 実績	31,644	-	-	-	-	-	1,677	-	-	-	33,321	-
売上高計	2021 修正計画	169,500	+16,637	165,200	+27,129	41,800	+7,875	27,200	+5,515	26,300	+8,068	430,000	+65,221
	2021 期初計画	160,500	+7,637	152,100	+14,029	39,500	+5,575	29,500	+7,815	18,400	+168	400,000	+35,221
	2020 実績	152,863	-	138,071	-	33,925	-	21,685	-	18,232	-	364,779	-

(単位：百万円)

上記売上高は外部顧客への売上高を記載しています。

営業利益

	年度 ※	日本		米州		東南アジア		中国		欧州		連結調整		グループ管理費用		連結計	
		前期比	前期比	前期比	前期比	前期比	前期比	前期比	前期比	前期比	前期比	前期比	前期比	前期比	前期比		
植物性油脂	2021 修正計画	3,835	▲615	1,120	▲807	1,222	+131	▲32	▲199	1,168	+1,093	181	+21	-	-	7,495	▲377
	2021 期初計画	3,499	▲951	1,127	▲800	793	▲298	▲61	▲228	754	+679	48	▲112	-	-	6,160	▲1,712
	2020 実績	4,450	-	1,927	-	1,091	-	167	-	75	-	160	-	-	-	7,872	-
業務用チョコレート	2021 修正計画	6,678	+804	1,215	▲53	610	+261	▲42	+124	112	▲121	36	▲12	-	-	8,611	+1,003
	2021 期初計画	5,765	▲109	2,116	+848	798	+449	39	+205	137	▲96	33	▲15	-	-	8,888	+1,280
	2020 実績	5,874	-	1,268	-	349	-	▲166	-	233	-	48	-	-	-	7,608	-
乳化・発酵素材	2021 修正計画	1,601	+141	-	-	▲334	▲182	1,477	+159	-	-	200	+127	-	-	2,945	+246
	2021 期初計画	1,662	+202	-	-	274	+426	1,801	+483	-	-	39	▲34	-	-	3,776	+1,077
	2020 実績	1,460	-	-	-	▲152	-	1,318	-	-	-	73	-	-	-	2,699	-
大豆加工素材	2021 修正計画	2,669	▲636	-	-	-	-	580	+249	▲333	▲207	89	+111	-	-	3,006	▲482
	2021 期初計画	3,040	▲265	-	-	-	-	644	+313	▲365	▲239	72	+94	-	-	3,391	▲97
	2020 実績	3,305	-	-	-	-	-	331	-	▲126	-	▲22	-	-	-	3,488	-
連結調整	2021 修正計画	215	+165	▲1	▲5	4	▲1	23	+4	32	▲88	▲274	▲74	-	-	-	-
	2021 期初計画	192	+142	-	▲4	-	▲5	-	▲19	-	▲120	▲192	+8	-	-	-	-
	2020 実績	50	-	4	-	5	-	19	-	120	-	▲200	-	-	-	-	-
グループ管理費用	2021 修正計画	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	▲4,059	▲303	▲4,059	▲303
	2021 期初計画	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	▲4,215	▲459	▲4,215	▲459
	2020 実績	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	▲3,756	-	▲3,756	-
営業利益計	2021 修正計画	15,000	▲140	2,334	▲866	1,504	+210	2,007	+337	978	+675	233	+175	▲4,059	▲303	18,000	+89
	2021 期初計画	14,158	▲982	3,243	+43	1,865	+571	2,423	+753	526	+223	-	▲58	▲4,215	▲459	18,000	+89
	2020 実績	15,140	-	3,200	-	1,294	-	1,670	-	303	-	58	-	▲3,756	-	17,911	-

※ 2021年度から大豆加工素材事業の豆乳およびUSS豆乳製品は、乳化・発酵素材事業に振り替えたことから、2020年度を遡及修正済み